



東西しらかわ小学校長会 広報部

第 4 号 令和2年2月5日
 発行人 会長 佐久間 芳雄

資質・能力を育むということ

東西しらかわ小学校長会副会長 荒川 文雄
 (棚倉町立棚倉小学校長)

はじめに

学習指導要領では、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる児童に「生きる力」を育むため、どのような資質・能力の育成を目指すのかを、各学校の特色を生かしながら具体化していくことが求められています。

本稿では、資質・能力を育むための棚倉小学校の取組について述べます。

1 資質・能力を考える

今回の学習指導要領で示された資質・能力の3つの柱は、答申では(生きて働く「知識・技能」の習得)(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)と表現されています。下線部が重要です。

つまり、資質・能力とは、各教科等における1時間の授業だけでなく、分かる・できる・楽しい授業を継続して醸成するものだと考えられます。

2 学校が具体化する

本校では、育てたい資質・能力を「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」という視点から考えています。「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つです。

この言葉が出ると、難しく感じられてしまうのですが、要は、社会に出てから必要になるという視点で、「生きる力」を整理したものです。「生きる力」と「基礎的・汎用的能力」は同じです。

3 教師が設定し、子どもに意識させる

資質・能力を育むために最も重要なことは、育てたい能力を教師が設定し、子どもにも意識させるということです。

本校は2学期制ですから、前期・後期をさらに2等分した「四半期」ごとに育てたい能力を教師が設定して、子どもに意識させ、評価しています。

例えば、第3学年の第1四半期は「規則正しい生活習慣を身に付ける(自己理解・自己管理能力)」を設定し、4段階の自己評価で肯定的に評価した児童は87%、教師の評価も同じでした。

4 目標設定→達成→振り返り→新たな目標設定

資質・能力は、目標を設定し、自力または協働で達成し、その過程を振り返り、新たな目標を設定するPDCAサイクルの中で、培われます。

日常の授業から行事への取り組み、学期の目標に至るまで、このサイクルを大切にして、自己マネジメント力を育成することが肝要なのです。



5 「ほめポイント」として関連的に指導する

資質・能力は、学校教育全体を通して育成するものです。例えば、先述の3学年の例で言えば、Aさんに「あいさつや時間を守る等」のよさを見つけ、これを「ほめポイント」とする。各教科や道徳、特活、総合等の関連した内容の授業などあらゆる機会を通して、これをもとにAさんを褒めることで、生活習慣が身に付きます。「ほめポイント」は、保護者や地域との連携でも有効です。

おわりに

資質・能力は、教師が設定し、子どもに意識させ、目標設定と振り返りを積み重ね、「ほめポイント」により教育活動全体で育てていきます。

結びに、公私にわたり、今までご指導、ご助言いただいた会員の皆様、先輩方に心から感謝申し上げます。(写真は、本校公開時の授業から。)

「校長の話」

素晴らしい出会いに感謝

東西しらかわ小学校長会副会長 菊池 篤志
(白河市立白河第一小学校長)

東西しらかわ小学校長会も統合2年目を迎え、より力強く運営できておりますことに、心から感謝申し上げます。今後も、様々な課題を「One Team」で乗り越えていきましょう。

さて、「校長あいさつ」「校長の話」、皆さんはどんな工夫をしていますか。

インターネットで「校長の話」を探すと、「長い」「苦痛」「倒れる」などの言葉が次々に出てきます。「覚えていない」などもあり、中には、大人になってから、今の小学生も校長の話を覚えていないかどうか確かめるために学校を訪問した、などの記録も載っています。とにかく、「校長の話」のイメージは良くないというのが、世間一般に言われているようです。校長側からすれば、出番の少ない校長の大事な時間なので、自分の思いをしっかりと話したいという一心なのですが…。

私は、次のようなことを心がけています。

- (1) 話は3～4分。長くても5分。
- (2) 拡大した資料や映像を使い、わかり易く。
- (3) 事前に、職員向けだよりで内容を伝え、生活等で活用してもらおう。(「校長先生も、担任と同じ事を言っている」と思わせる。)
- (4) 終業式は、話2分で、残りは振り返りのスライドショー。(永山美雄先生のアドバイス)
- (5) 始業式はどの学期も同じ話など、年間を通した計画的な話をする。また、データに残して参考にする。
- (6) なるべく本物を見せる。
- (7) インパクトのある題材を入れる。

先日、全連小秋田大会での橋本五郎さんの講話の中で、高校のときの校長の話の「汝、何のためにそこにあるや」という言葉を、常に自分を省みるときに思い出すとのことでした。インパクトのある話は、いつまでも心に残るものなのですね。

皆さんの「校長の話」の工夫、是非、聞いてみたいですね。

「校長の話」のイメージが変わり、「良かった」「面白かった」「ためになった」「今でも心に残っている」となるよう、みんなで努力しましょう。



白河市立小田川小学校長 佐藤 宏道
私は36年間の教員生活で、小学校9校と行政機関等に2回勤務させていただきましたが、どこに行っても素晴らしい人や仕事に出会い、思いの深い、充実した日々を過ごすことができました。

振り返ると、初任校は研究がとても盛んで、赴任して間もなく「ソニー賞で300万円をもらったら、温泉で豪遊させるから応募の手伝いをしないか」と先輩から誘われ、その言葉を信じて(?)手伝いをしました。3年目に最優秀校に選ばれて、300万円の小切手を見せてもらいましたが、宛名はPTA会長さんでした。先輩に約束が違うと訴えましたが、無駄でした。会費制で、みんなで祝賀会を開きましたが、とてもよい経験になりました。ここでの経験が、次の学校でソニー賞の応募につながり、先輩や同僚の先生と夜遅くまで作業し受賞することができました。3校目では、授業についてたくさん研修をさせていただきました。特に生活科は、文部省から研究指定を受け、校長先生から思い切って何でもやってよいと言われました。児童が川に入って魚を追いかけ「『魚は速く泳ぐことができる。手で捕まえることは難しい。』ということが分かった」と発表するなど、体験の素晴らしさを教えられましたが、今思うとドキドキの活動であったと思います。4校目では、緑の少年団活動が活発で、自然を教材に取り入れるよさに気付かされました。このことが、5校目で環境教育の指定を受け、水質調査などを行ったときに活用することができました。6校目で体験した特別な支援が必要な児童や保護者への対応が、その後の行政機関での仕事や校長として勤務した学校の就学指導でも大変役に立ちました。また、青少年教育機関での勤務は、学校教育と社会教育の関連について知ることができました。

昨年末ある会議の後、参加者の男性から「先生、覚えていますか」と声を掛けられました。27年前に1年生を担当した時の子どもでした。あの時と同じように目が輝いていました。今まで出会った素晴らしい子どもたち、そして、いつも温かく支えてくださったたくさんの方々に、「感謝」の言葉しかありません。ありがとうございました。



思い出いっぱい38年間

校長室への小さな訪問者

白河市立五箇小学校長 佐藤 美江子

小学校の担任の先生にあこがれてこの道を選び、10校38年間の教員生活も、間もなく終着点を迎えます。

私の胸の中には数多くの思い出が刻まれています。その中から2つ記したいと思います。

1つは、中島村立吉子川小学校で「全校マーチング」を教育目標に掲げ、全校生・教職員が一つになって取り組んだことです。当時の大塚克正校長先生は、「小規模校の吉子川小学校の子どもたちは、郡音楽祭や郡陸上競技大会で、大規模校に圧倒され、自信が持てない。マーチングなら、トランペット1本で大きな音を出し、存在感を示すことができる。この子たちに自信をつけさせたいのだ。全校マーチングをやる。」という指針を示して下さい、当時マーチングを知る人は少なく、全国各地で講習会を受け、指導にあたりました。なんと創設のその年に、全校マーチングが高く評価され、県大会・東北大会、そして、日本武道館での全国大会で3年生以上の全員が胸を張って演奏・ドリルを行いました。子どもたちは、大きな自信を勝ち取ることができました。

2つ目は、五箇小学校での特色ある書写教育です。本校には、教諭の時も勤務し、書写教育に携わってきました。子どもたちは、「書写で福島県一の学校」という自信と誇りを持っています。伝統でもあります。だから、週1時間の書写の学習を子どもたちも教師も真剣に取り組んでいます。鉛筆や筆を正しく持って、姿勢を正して、課題をしっかりと見て集中して文字に向かうことができます。そして、子どもたちのノートの文字がきれいなことに驚かされます。この取り組みは、学力向上に大いに役立っていると思います。先日の校内書きぞめ展でも子どもたち同士切磋琢磨しながら素晴らしい作品を仕上げました。「本気でやればできる」という自信が子どもたちを強くしていると確信しています。

10校のどの学校でも、先輩や同僚の先生方や瞳輝く子どもたち、そして保護者や地域の方々にたくさん助けをいただきました。私の心の宝箱には、素敵な思い出があふれ出しそうです。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

白河市立みさか小学校長 武藤 誠

今日も校長室は大変賑やかでした。

朝、家でのいらいらを友達にぶつけ、そのことを先生に注意されたことで、怒りが爆発した子ども。しばらく校長室で預かり、なんとか落ち着きを取り戻すと、担任の先生と一緒に何もなかったかのように教室へもどって行きました。すると今度は遅れて登校してきた子どもが教室まで行かず、校長室に途中下車。しばし自宅でかっている猫の話で盛り上がったところで支援の先生が上手に授業に誘ってくれて校長室を出て行きました。そしてまたしばらくすると、今度は授業で思うように自分の力を発揮できず、すねて教室を飛び出した子どもが校長室に。暗い顔で校長室の隅っこに隠れてしまいました。なんとかなだめていると担任が迎えに来て、授業に戻っていきました。その後、しばらくゆったりとした時間が流れ、文書进行处理していると、突然「やだ、やだ、ぜったい教室に行かない」とリコーダーがうまくできないと校長室に逃げてくる子ども。支援員さんがしっかりと話を聞いてくれて、納得して校長室を出て行きました。そして昼休み、1年生の子どもたちが「校長先生、あそぼ!」と校長室を訪れます。たわいもない話をしただけなのに、「あー楽しかった。明日も来ます。」と言って出て行きました。こんなふうに、校長室には元気な子どもたちがいっぱい訪れます。ですから一日過ぎるのはあっという間で、これが校長室の日常になっています。ちょっと開きすぎかなとも思いますが、少しでも子どもの心や先生方の心がやすらくなるのであればそれはそれで価値があると思っていますし、なにより子どもの実態を知るよりよい機会となっています。

退職まであとわずか。毎日すべてが頭に「最後」という言葉がついているわけですが、そんなことを気にしている余裕もなく、慌ただしくも充実した?日々が流れています。

さて、明日はどんな子どもたちがどんな姿で校長室を訪問してくれるのか・・・楽しみです!

教員生活を振り返って今、思うこと

校長のための校長会に

白河市立小野田小学校長 宗像 浩

校長室から見える季節毎の風景は、格別です。春には、学校から少し離れた所に、畑一面黄色に染めた菜の花が咲き誇り、その中を6年生が1年生を導きながら歩く、異学年交流活動「なかよし遠足」が行われます。子どもたちが菜の花畑を歩きやすいようにと、地域の方が通り道をつくってくださり、さらにはみんなで写真が撮りやすいようにと、ステージ台まで用意してくださいます。菜の花の心地よい香りと春の暖かさ、地域の方々の温もりなども重ね合わせながら、小野田小の子どもたちが「ONE TEAM!」となる日です。本校の校長として赴任し、地域の方々にも恵まれ教職員が一丸となって子どもたちの教育活動にあたることができた3年間でした。

子どもは地域という大きな輪の中にいます。地域には、学校や家庭だけでなく子どもを支えてくださる方々が大勢います。子どもはたくさんの方々に関わりをもって育てられることで、健やかな成長につながります。そのため、大人がしっかりとスクラムを組み、豊かな教育環境を整えることが大切であると思います。

教職員については、管理職となってから人材育成を意識するようになりました。人を育てる喜びや難しさも感じた経験から、「校長及び教員の資質の向上に関する指標」をもとに、教員として、各ステージの職責、経験及び適性に応じて、身につけなければならない資質がいかに大切であるかを再認識しています。

現在、様々な教育改革が進められていること、想定外の事件・事故も起きていることなどから、校長として判断に迷う時もあるかと思えます。そのため、日々の小さな判断を積み重ね、絶えずその結果を振り返りながら、自分で自分を育てる覚悟が必要です。そのような経験を積んだ校長の方針や行動は、教職員や保護者、地域の方々の心に届き、相互の信頼が深まり、結果も残せると確信しています。私はなかなか思うようにできませんでしたが、これまで校長先生方を始め、同僚に支えていただきながら、37年間務めてこれたことに感謝いたします。

白河市立信夫第一小学校長 木村 真一

昨年秋、日本で開催されたラグビーワールドカップは、南アフリカの通算3度目の優勝で幕を閉じた。また、この大会において日本代表チームが初のベスト8進出の偉業を達成したことも記憶に新しい。日本チームが予選を勝ち進み、予選突破のムードが盛り上がるにつれ、私もラグビーの「にわかファン」になった。相手に倒され続けながらも、一人一人がプレーを繋ぎボールを少しずつ少しずつ前に進める姿や、相手の果敢な攻撃を全身を投げ出してのタックルで防ぐ力と力のぶつかり合いの姿に感動を覚えた。トライを取るために一人一人の持ち場の役割や責任に、全力を尽くすこの競技は、まさに「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉が相応しい。また、「ワンチーム」の合言葉は流行語にもなった。

さて、自問自答してみる。私は、「ワンチーム」の学校教職員チームを作ってきたのだろうか。教職員が、同じ目標に向かって、一人一人の持ち場の役割や責任に全力を尽くしている姿が見られるだろうか。また、校長の経営ビジョンの理念が各学級経営に活かされているだろうか。そして、目指す子どもの姿に子ども達は近づいているだろうか。正直、胸を張って誇れるものがない。

平成28～29年度に青少年赤十字推進指定校を受けたのを機に、「気づき」「考え」「実行する」「振り返る」態度の育成を通し、教育目標の実現を目指してきたが、目の前には厚い壁や高いハードルが次々と並んでいる。「もはや絶体絶命」しかし「大逆転は、起こりうる」と信じ一歩ずつ前に進めるために最後まで諦めない。

「ワンチーム」で障害を乗り越えるためには、校長のリーダーシップが不可欠である。こういうときに頼りになるのが校長会での校長同士の繋がりがりだ。本小校長会の研修会や情報交換の場は、悩み、ときには自信を失いかげそうな自分の識見を深めたり、各校長先生の考え方や学校経営力を学んだりする場として大変有意義なものである。

今後も、校長会が校長一人一人を奮い立たせる頼もしいものに発展してほしいと願う。

福島県を愛する一人として

恩師木川達爾先生のこと

西郷村立熊倉小学校長 佐藤 悟

私は神奈川県川崎市の出身であります。福島県の教員として採用いただきました。採用当時は、現在のようにほとんどの学校に新採用の教員がいた時代でした。とはいえ、その当時は他県出身者の採用は簡単ではなかったような気がします。

面接試験では、「なぜ、他県のあなたが福島県の採用試験を受験したのですか」とずばり聞かれました。面接官は別の答えを期待していたと思うのですが、正直に「同じく福島県の採用試験を受けている人と結婚を考えており受験をしました」と答えると、「相手の方の受験番号は何番ですか」と追質問がありました。幸い受験番号を覚えていましたので、すぐに答えることができました。

そんなこともあって、私の初任地がいわき市の植田小学校、家内が隣の菊田小学校でした。多くの採用者の中で、県教委が特別の計らいをしてくれたのだなと感謝しています。それ以来、38年間教職を共にし、家内と一緒に定年を迎えることは、感慨深いものがあります。

同じ猪年なので、年中、角を突き合っていました。途中、8年6ヶ月間の単身赴任生活があったので、家庭のことは、ほとんど家内がやってくれていました。校長会や教頭会で、同席することが多く、正直、気恥ずかしい気持ちが強かったですが、分からないことがあるときは、お互いに相談できたことは、良かったことかもしれません。

ただ言えることは、家内のおかげで、福島県に縁があり、福島県の多くの子どもたちと出会い、先生方、保護者の方、地域の方にお世話になり、福島県の教員だからこそできたことがたくさんありました。特に、震災・原発事故は大きな出来事でしたが、福島県の復興のために管理職としてかわり、あんぽ柿の発祥の地である五十沢の小学校長として、閉校まで勤めることができました。現在の熊倉小学校でも放射線教育の実践校として、学校林「くまっこの森」を有効に活用させていただきました。

私はすでに福島県在住の期間の方が長く、すっかり福島県の人になっています。これからも福島県を愛する一人として、福島県のために何かできたらと思っています。



矢吹町立矢吹小学校長 小針 恵美子

まもなく退職を迎え、今38年間の教師人生を振り返ると、まず思い浮かぶことは「感謝」の2文字です。多くの子ども達、同僚、校長会の皆様はじめ関係者の皆さん等々、そして家族に「感謝」の気持ちでいっぱいです。

私には、この38年間の教師人生をずっと支え続けて下さった、今は亡き恩師がいます。その恩師とは、大学時代の木川達爾先生です。木川先生は、大学の名誉教授という立場にありながらも、どの学生に対しても公平でお優しく、教育愛に満ち溢れていました。社会科専攻だった私は、先生の90分の講義を夢中になってメモをとりながら聴き、学んだこと鮮明に思い出します。

木川先生の多くの教えの中で、心に残っている言葉に、「教育愛」と「忍耐」があります。それは、「母の深い愛情のように、指導する時には子ども達のよりよい変容を願い、見返りを期待せず、子どもを信じて寄り添ってあげること、そして、教師として生きていく中で、おそらく想像できないような困難が待っているかもしれないが、忍耐強くあきらめないでがんばってほしい。」ということ、学生の私達に、静かにそして強い信念をもって、何度も何度も語りかけて下さいました。

今、自分の教師人生を振り返ると、迷い悩みながらも、木川先生の言葉を忘れずに子ども達のことを考えて、精一杯向き合ってきたように思います。しかし、恩師が志した「真の教育」にはほど遠く、一人一人に寄り添った教育は、とても遙かな忍耐の要る道のりでした。ただ、未熟な教師でしたが、未来の子ども達の成長の一端にかかわり、共に喜び共に悲しみながらも、38年間、元気に教師を続けることができたことは、自分の人生の大きな喜びであり、今心から誇りに思っています。

「真の教育者」とは、木川先生のように、遠くにいてもたとえ命が亡くなっても、その人の心の中でずっと自分を支え、生きるひとすじの道を照らしてくれる存在。私にとって、恩師木川先生の存在が、いかに大切であったかと改めて気づかされ、大学時代に、木川先生に出会えたことを心から「感謝」し、落ち着いたら先生の墓前に、退職の報告に行こうと思っています。

教育の原点

埜町立埜小学校長 西牧 武美

私の教員人生は、千葉県の養護学校(現在の特別支援学校)から始まりました。病院と併設されている学校で、入院している重度重複障がいの子ども達を学校へ連れてきて指導していました。一人の教員が3~4名を担当します。ほとんど寝たきりで、生涯にわたって病院で生活している子ども達です。学校周辺を車いすに乗せて散歩させたり、学校のプレイルームで歌を歌って聞かせたりしました。硬直した手足の関節をのぼしたり、表情のない顔の筋肉をほぐしたり、訓練的なことも行いました。病院の中では、昼食を食べさせたり、おむつの交換をしたり、それって看護師さんの仕事だよ、ということまで行っていました。

そのようなことを毎日行っているうちに、私は大きな疑問をもつようになりました。教員になったはずなのに、これって本当に教育なの? 介護や介助をしているだけではないの? 先輩に疑問をぶつけてみました。すると先輩は、「決してそうではない。教育の原点がここにはある。」と教えてくれたのです。二十歳以上はほぼ生きることのできない子ども達が、生きていく間に少しでも良い状態でいられるように手助けすること、そのために、使える機能をフルに発揮して生活できるようにしてあげることが私達の役割であるということです。顔が硬直してしまって全く表情のない子の頬を毎日マッサージしているうちに、ある日、少しでも微笑む表情が見られました。その時はとてもうれしくて、根気よく続けてきて本当に良かったと感じました。「教育の原点はここにある。」という先輩の言葉を身をもって感じた瞬間でした。

それ以来、「教育の原点」の場で学んだこと、経験したことをもとに、「一人一人に合った指導を根気よく続けること」という当たり前のことを大事にして教員生活を送ってきたつもりです。十分にその通りにできたかどうかはわかりません。しかし、悩んでいた私にアドバイスをしてくれたその当時の先輩をはじめ、多くの先輩や同僚に助けられながらここまでやってこれたのは確かです。多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。お世話になりました。ありがとうございました。



教育環境を整えるために

東西しらかわ小学校長会行財政部長 菊地 好博
(白河市立白河第五小学校長)

次年度から新学習指導要領が完全実施となり、学校教育が大きく変化しようとしている中、校長先生方におかれましては、調査研究をはじめとした行財政部の取り組みに、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、5月には「教育財政に関する調査」として、教職員の配置等に関する調査、教育施策実施状況に関する調査、大震災・原発事故の影響に係る調査にご協力いただきありがとうございます。9月には、県全体の調査結果が集計され、調査結果とともに、調査項目ごとの分析・考察等が、県小学校長会のHPに掲載されました。この資料は、福島県の小学校教育の現状を各小学校で共有するとともに、人的・物的教育環境や教育課程の改善を図っていく上での有効な資料と考えます。また、福島県議会議員様や各市町村長様、教育委員会教育長様への「義務教育の充実・振興について」の要望活動の基礎資料にもなっております。ぜひ、次年度の学校経営、教育課程編成等に役立てていただければと思います。

先日、福島民報新聞の「みんなのひろば」に、ある中学生が「学力向上や子どもたちの笑顔が生まれる環境とは何かを、役所が自ら考えるだけでなく、現場の児童生徒や教師が求めているものを聞き取りながら、真の良い環境をつくってほしい」という内容で投書されたものが掲載されました。自校の実態や課題を教員の目線だけでなく児童生徒の目線も大切にしながら、児童生徒が考える真のよい環境を整えるための行財政部の要望活動になればよいと考えます。

今後の活動といたしましては、3月に令和2年度「教職員人事の反省」のとりまとめが予定されています。人事異動は、学校にとって次年度の教育活動を左右するとともに、教職員の意欲を高めるとも大切なものだと思います。そのためにも、各校より具体的な改善策や提案をいただければありがたいです。また、教育活動を推進していく中で、行財政上の観点から要望等がありましたら、担当までお知らせください。支会長様にご指導をいただき、改善を図っていきたく思います。今後ともよろしく願いいたします。